

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371500010		
法人名	有限会社 さかがわ		
事業所名	グループホーム遊鳥		
所在地	熊本県天草市栖本町湯船原759番地		
自己評価作成日	令和6年11月20日	評価結果市町村受理日	令和7年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和6年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天草の自然の多い環境の中に事業所はあり18年目を迎えている。ホームの敷地内に季節の野菜や花を育て収穫までして楽しんでいる。利用者の方も自由に動ける方が多くなってホーム周辺を散歩したり、ご家族と面会だけでなく外出、外泊をされたりして家族との関係も続いている。室内では毎月利用者とスタッフと一緒に制作した飾り物を掲示したり、散歩中に摘んだ草花を飾ったりして季節感を楽しんでいる。制作した作品は10月に作品展示をする機会があるので3回目の展示を楽しみに頑張っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して18年という経年により床の張り替えや玄関前に増設した面会棟は家族との一時をゆっくり過ごす事ができる等環境を整備している。職員は入居者に自然体に関わり、残存能力を見極め、できる力が発揮出来るように干涉することなく見守りに徹している。自然発生的に洗濯物を畳んだり、“みんなの台所ゆとり”で洗い物等に精を出す入居者等“らしい”生活の支援に注視したケアに努めている。入居者の中には「ひと回りしてきます」と散歩に出かけたり、遠くまでの散歩には地域住民の見守り支援を受ける等地域の中のホームとして確固たる基盤が築かれている。地区の祭り時には獅子舞の訪問や町の敬老会への参加、毎月作る作品はホームの彩りとして生かされるとともに、作品展への展示は作る過程の楽しみや見学に出かける等満足感や達成感として生かされている。職員は入居者からの“ありがとう 美味しかった”等の言葉を励みとし、お互いが労い合う姿勢や“ただいま 行ってきます お帰なさい”等の声が絶えない温かいホームが形成されている。自然災害時の福祉避難所としても視野に話し合いが行なわれる等地域への寄与に大いに期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	午前、午後の申し送りの後の理念の唱和は継続している。職員は意識しながら実践できるように努めている。	開設時よりの理念は職員のケア規範として息づき、玄関先等に大きく掲げることで訪問者への啓発や、職員のその日の振り返りとして生かされている。入居者の入れ替りという時期にもあるが、管理者を中心に自然体で干渉しすぎず、台所の手伝いや一緒になっての作品作り等ホームで“らしく”生活できるホームが形成されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのお店で野菜など購入している。パン、豆腐、野菜の移動販売に加え、入居者の方に魚を捌くのが好きな方がいるので知り合いの方に立ち寄って頂いている。中学校の花の苗プレゼントは継続して頂いている。マンドリン部からの訪問も受け入れて今年2回演奏を聞くことができています。	地域密着型事業所としての意義を踏まえた運営がこの地に確固たる基盤を築き、自治会常会への参加や区費の支払い等を継続している。中学校との交流(まごころ便として花の提供やマンドリン部の訪問等)、地域の行事(鬼火焼等)の参加、栖本町大祭時には獅子舞の訪問、天草認知症センターによる作品展への出品は作る過程の楽しみや達成感・満足感となり見学することで住民との交流として生かされており、地域の中で充実した生活である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	栖本町や町内の関連機関や事業所で作る、栖本こころプロジェクトのメンバーになっており、認知症相談などの役割を担っている。会議にも参加し現状を報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者で長めの散歩をされる方がいることを毎回状況を報告している。ご家族からの同意を得て区長、民生委員、包括の方にも顔写真を配布するなどして協力をお願いしている。	運営推進会議は感染症が5類となり、対面で開催し、区長・民生委員・入居者・地域包括支援センターや家族代表、法人代表及び管理者等一堂に介して開催している。一人で外出される入居者の状況を説明し、家族の同意及び運営推進会議で了解を得て派出所やガソリンスタンド等に顔写真の配布など課題解決にこの会議を有効に活用している。町での消防訓練、福祉避難所開設及び要支援者の避難訓練に参加した状況をもとに検討する等地域への貢献も視野にした話し合いが行なわれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員、地域の方と一緒に災害時の福祉避難所の開設及び要支援者の避難訓練を行っている。	行政が行なう災害訓練への参加や町の敬老会への参加、町のこころプロジェクトメンバーとして企画・参画している。運営推進会議を通じてホームの取り組みも現状を発信し、助言や情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束対策会議を行いフィジカルロック、スピーチロック、ドラッグロックについて話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化廃止に向け年に4回、内2回は運営推進会議の中で検討している。スピーチロックとして“ちょっと待ってください、だめです、やめてください”には具体的に言い換えることや冷静に問いかけること等を共有している。職員は身体拘束・虐待等自己チェックするとともに、学ぶ機会を作る等拘束の弊害を正しく認識し、拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止対策会議を定期的開催。「虐待の芽チェックリスト」の自己チェックをしたり、介護施設で行われた虐待報道の記事などを活用したりして虐待防止に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方はいないが、包括などに出向いた際は社会福祉協議会にも立ち寄っている。医療的行為が必要で退居になった方が身寄りがない為、住所はそのまま施設にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の検討を考えている方には気軽に施設内を見学して雰囲気を感じて頂き、不安や疑問点を尋ねやすくできるよう努めている。その際、パンフレット等で料金の説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日常を管理者がLINE で写真や動画を送ったりしている中でご家族も徐々に状況伺いや相談などしやすくなり対応が早くできている。入居からほぼ毎日面会に来られているご家族もおり日に日に施設に慣れていかれるのを見て安心していただいている。	家族との関係性の構築に努め、頻繁に訪問される家族も多く、あらたに面会室を玄関の外に設置している。訪問時やライン等により家族の要望等の他、病院受診に関する相談に応じる等こまめに相互連絡している。運営推進会議も問題提起の場の機会としている。“ゆとり便り”に入居者自身で書いて貰う等ホームからの情報発信が家族の安心に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング開催時は代表も参加し職員の意見に耳を傾けている。対応すべき事案はLINE で通知する体制にしている。個別対応が必要な場合は代表にもご家族と面談して話し合うようにしている。	管理者は日々のケアのなかで職員とのコミュニケーションを図り、代表も参加したミーティング等職員が意見や提案を出す機会も多く、今年度は職員との話し合いによる床の張り替えや空調等が整備されている。また、管理者及び主任と代表者とのラインを介した話し合いを全職員に周知を図るとともに、何かあれば代表に具申する体制としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は管理者からの職員の状況に耳を傾け職員によっては既存の勤務体制にはこだわらず勤務できるように調整している。小学生の子育て中の職員には夏休みなどは一緒に出勤して施設内で過ごしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のスタッフに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修会への参加は促している。参加した職員から感想を聞いたりして共有している。リモートの場合は施設内で受講できるような環境を整えているので職員のスキルアップに努めていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相談がある場合は同系列事業所の管理者に連絡し意見をもらっている。同業者との交流や体制は出来ていないので機会を作れるようにしたい。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談を行い緊張をしないで話せる雰囲気づくりを心掛けている。不安なこと、質問などを受けつけ少しでも信頼関係が築けスムーズに利用開始できるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に可能であれば利用者本人とご家族に施設見学をして頂いている。入居者の生活状況を確認して、ご家族には心配している事、要望などを受けつけ少しでも不安の軽減ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の時、本人のADLの状況を見ながら今必要なサービス、ケアを検討、提案し提供できるように職員で共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴、施設での生活状況を把握しながら、家事全般の作業をできる方と一緒に楽しみながら行き、「必要とされている」「役割がある」と感じてもらえるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活のお手伝いをしていく中でご家族に可能であれば衣替えなどは本人と一緒にしていただくようにお声掛けしている。面会だけでは気づけない部分も見えてくるので共有出来ることが増え、何かあった時も相談しやすく対応が早く出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のスタッフに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のご主人が施設の方に面会に来るのが苦手な為、娘さんと話し合い月に1回車イス使用なので職員が送迎し自宅で2時間程ご家族と過ごして頂いている。	家族の訪問や家族との外食、自宅で過ごす時間を作ったり、入居者本人による受診料支払いや家族の支援による選挙投票等社会性の継続も視野に支援している。地域の祭り見学(鬼火焼き等)や入居者同士、職員との関係等も馴染みの関係性にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者に同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自由に行動、発言される方が同テーブルで過ごされることが多いので、職員はお手伝いして頂く内容に応じて利用者同士の組み合わせも考えながらトラブルにならないよう声掛けしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族が知人をご紹介頂いて入居に繋がったりしている。また退居後も旬の野菜などが多く取れたからと頂いたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	病院受診時の待ち時間やゆっくりとした時間の中で職員が会話しながらやりたいこと、出来ることを見つけて思いに寄り添えるように努めている。	入居者は自己決定できる方が多く、入居者との生活の中で聞き取りし、中には家族に代弁しながら実現させるケースもある。意思疎通が困難な方には表情や仕草等を推察する他、入居者が答えやすいように開かれた会話を努め、選択肢を投げかけ、笑いもバロメーターとして捉えながら本人本位になるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時に職員からの近況報告の際、入居後信頼関係築けてから得られる情報もあるので、聞き取りしサービスに繋がられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設での日常生活を通じて利用者個人の状況を把握できるように申し送りや記録、ミーティングを通して職員間で情報を共有している。必要なことはご家族とも共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のスタッフに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアをしていく中で利用者の言動に変化があった場合は申し送り、様子観察しアセスメントを行い家族の意向も聞き計画作成担当者が把握し介護計画の作成に組み込んでいる。	ミーティングの中で家族の要望や心身の状況、トイレの回数、ベッド配置等職員の日々のケアから気づいた事案等を話し合い、プラン見直しに反映させている。家族を含めた担当者会議を開催し、家族の同意を得ている。入居者の干渉されずに散歩をしたいとする思いに応え家族との同意書を交わすなど本人の気持ちに寄り添っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	R6.6/1～個別記録はタブレットへ移行している。画像やバイタルなどは1か月分などグラフにして見てもらえるので変化もわかりやすく主治医や職員への説明もしやすく情報の共有ができる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内で福祉用具を取り扱っているため体位変換など介助が難しい方はエアマット無料で貸し出ししている。下肢筋力が落ちてきている方もいるので歩行器や平行棒などを利用している。またご家族から外出、外泊の要望があれば可能な限り行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の美容室を利用したり、長めの散歩をされる方はほぼ毎日同じコースを行かれるので派出所、ガソリンスタンドなどに状況をお伝えしているので気にかけて頂いてる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の聞き取りをし、ご家族にも相談しながら施設の協力提携医院の説明も行ってできる限り希望に添うようにしている。状況に応じて専門医を紹介して頂いている。	家族の希望するこれまでのかかりつけ医で良いとしているが、入居に際し協力医療機関を提案している。ほとんどの入居者が2カ所からの訪問診療や受診として、治療方法の変更や検査が必要な場合には家族に受診を依頼している。職員は日々のバイタルチェックや表情、体重の低下等から異常を見極め、家族へ相談するとともに適切な医療を支援している。更に、薬の変更等はラインを通して家族に発信している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のスタッフに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に看護師資格者がいるので管理者と話し合いながら受診、往診を分担している。薬など変更あった場合は申し送りし情報を共有している。口腔ケアが難しい方は歯科往診時のケアの動画を撮り職員のケアに繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーで情報提供している。洗濯物受け取り時に状況を聞くようにしている。入院1か月を目処に長引く場合は地域連携室や主治医に相談しながら努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針の説明と医療についての事前調査を行っている。入院された場合は今後についての家族の思いを確認するようにしている。	重度化や終末期に向けた方針を説明し、事前指定書で家族の意向を確認している。医療中心になればホームでの対応は難しいとして2年前の支援を最後に看取り支援は行なわれていない。最近は入院が多くなり、1ヵ月程度を目処に家族や主治医、病院連携室と相談しながら今後を見極めるとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応後、対応した職員が流れを申し送りし良かったこと、反省点など共有し次に繋げられるように努めている。かかりつけ医が近くに2か所あるのでまず報告し判断をもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	台風など風水害が起きそうな時は地域の避難所へ入居者全員避難を積極的に行うようにしている。物品、食料などの備蓄もして定期的に入れ替えをしている。	ホームでは自衛水防組織を編成し、情報収集や教護・安全対策や物資班の役割を各職員が担い、これまでも台風時の事前避難を何度も体験している。消防署立ち会いのもと夜間の出火を想定した火災訓練では、全職員が水消火器を使った訓練を行ない有事に備えている。行政と連携して福祉避難所の開設により、地域に貢献したいとしている。	BCP策定により、緊急連絡網を作成している。実際の訓練には至っておらず、早期にとる組まれることを期待したい。広くホームの防災に対する取り組みを発信し、福祉避難所としての役割を近隣住民に知ってもらえるような取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のスタッフに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレなど自立の方が多いため尋ねることで不快な気持ちにならないようトイレの入口にセンサーを設置している。使用時間が長い時は出られた後に確認に行っている。	職員は日頃から入居者の尊厳を大切にケアに努め、排泄の自立を見守り、必要時に声を掛ける等入居者の気持ちに寄り添い、職員間で共有しながら支援している。入居者への呼称は本人に聞き取りして呼びかけるとして、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる方が多いので選択肢がある言葉かけを心掛けている。饅頭の白あん、黒あんを決めるのでも盛り上がったたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、静養、入浴など本人の希望を聞いてから判断するように努めている。ホール内で歩行練習や施設周辺散歩なども体調が悪くなければ好きな時間にいただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性利用者には個人の髭剃りで剃って頂いている。行事の時は希望者にはお化粧をしている。ご家族や本人希望の方は外出して美容室に行ってもらいカット、染めまでされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器類など個人の状態に合わせて変更したりして工夫している。畑で玉ねぎ、から芋を作って収穫した際は調理して食べて頂いている。ピザの生地をスタッフが作ってトッピングを利用者にお願いして好きな具材を好きなように盛り付けてホットプレートで焼いてもらっている。	“みんなの台所ゆとり”と命名された台所は、入居者が馴染みの作業に携わる場所として野菜の切り込み、洗い物等に自発的に関わり、献立はその日の担当者が考え、菜園で収穫した野菜等も食卓を賑わしている。職員の「温かいうちにどうぞ」の声に「美味いかなー」や男性入居者のお礼の言葉が飛び交う食事風景である。更に父の日等行事の他、入居者の意向による焼きそば・ちゃんぽん・焼き鳥や、鍋奉行等入居者ができる力を活かした食事を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖分の補充が必要な利用者の方には起床前にブドウ糖のタブレットを食べてもらい、食事や水分にも蜂蜜を入れたりして糖分が切れないように努めている。ムセなどがある方にはトロミ使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、介助を行っている。訪問歯科を4名の方が利用しているが訪問時は情報を共有している。うがいができない方は飲んでもいいように白湯を使っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調に合わせて自力で排泄できるように日中も居室にPWC設置している。活動的な時はトイレに行かれるので体調の具合の把握もできている。	自立した入居者を見守り、状態に応じ声かけ・誘導し、トイレでの排泄を促している。日中居室で過ごされる場合や身体状況から夜間の転倒リスクを考慮して昼夜を通じてポータブルトイレを設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を確認しながら申し送りし排便不十分な方にはオリゴ糖、牛乳を飲用してもらっている。豆腐屋さんから頂いているおからは継続して料理に取り入れている。排便が出ない時車椅子で前傾姿勢になりやすい方はソファに移動し嘔吐しないようにもたれてもらう。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴嫌いな方で何か作業や作品作りなどできたという達成感の後に声掛けするとスムーズに入浴されることが多いので工夫している。また、散歩の後などに入浴できるように午前中から浴槽にお湯を貯めたりしている。	浴室は経年にあっても衛生的に管理しており、入居者が気持ちよく使えるようにしている。入浴に強い拒否は無いが、職員の声かけに「毎日入っている」と断られる場合には、時間を見て「順番が来ましたのでどうぞ」と勧めると入られる等個々のタイミングを見ながら対応している。また、風呂場にマットを敷くことで自由に入る入居者や、冬至の柚等楽しみに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安や悲観的な言葉が多い方にはクッションなど抱き枕してもらったりしている。オムツなどもライフリースーツの職員の方から研修を受け長時間吸収のオムツを使用することで中途覚醒を軽減でき安眠に繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、名前、日付、時間を復唱してから服用していただいている。錠剤の飲み残しがないか確認し、薬変更時は申し送りし状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所で作業するのが好きな方は食器洗いや野菜の切込みなどしていただいている。酢の物や魚を捌くのは得意なので1品として食べて頂いている。食事前後のテーブル拭きも自分の日課にしている方もいるので自ら時間になると手伝って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	3名の方が日課として散歩をされている。体調や天気を見て早いときは朝食前からホーム周辺をおしゃべりや花摘みながら楽しまれている。また居室に引きこもりがちな方には朝から日光を浴びてもらうようにタオル干しをお願いしたりしている。長めの散歩される方は時間を設定して戻れない時は迎えに行くようにしている。	ホームでは入居者の出かけたいたい思いによって支援しており、ホーム周辺と一緒に散歩する方や、地域住民の見守り協力を得て、遠くまで散歩される入居者もおられる。今年は庭の桃が想定外の実を付け、皆で収穫を楽しみ、輪になっておやつに興じ、草取りや収穫等菜園の管理にも入居者の力が活かされている。町主催の敬老会等地域資源を活用し外に出ることを支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診の際、支払いを自分でしたい方がいるので1万円以内で所持してもらい支払った後は入浴後などに残金確認したり所持金少なくなったときは預り金から補充したりしてお金に対して不安がないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のスタッフに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月遊鳥便りをご家族に送っているが数名の方は自筆で書いていただいているので元気でいることが伝わり喜ばれている。本人希望で気になることがあったときは電話をかけて頂いている。利用者の姉妹の方で定期的に絵手紙を送ることを励みにされており、職員もお礼にハガキを送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月テーマを決めてスタッフと利用者で作品作りをしている。飾るところまで手伝ってもらえ本人の達成感にも繋がりが作品に足を運ばれたりしている。施設周辺の草花を散歩を兼ねて摘んでこられテーブルに飾られたりして季節感を楽しまれている。ホール中央には室温計を設置し調整している。	共有空間の床等がリフォームされ明るく見晴らしの良いホールには入居者と職員が一緒に手作りした作品が共有空間の彩りなる等職員の特技も生かされた住環境である。入居者も出番とばかり、朝からテーブル拭きや床の掃除等に取り組まれている。洗濯物たみもタオル類はテーブル上でも、下着はソファに座ってされる等入居者の心配りを見る事が出来るホームである。室温度管理を徹底し、居心地良く過ごす環境が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	朝からテーブルに新聞を置いておくと自分の読みたい時にゆっくりと読まれている。体操などもそれぞれが好きなところできるようにソファを設置。休息にも使われている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に使い慣れたものを持って来てもらい自宅と同じような雰囲気づくりをお願いしている。ご仏壇を持ってこられている方は毎朝花の水替えをしたり、観葉植物が好きな方は施設周辺から摘んできたりして楽しまれている。目の不自由な方は居室でYouTubeの演歌や漫談を楽しまれている。	入居時にこれまで使われていた馴染みの品を持ち込んでもらうように伝えている。寝具や収納ボックス等が持参され、職員はベッド等との位置や動線を考慮して配置している。入居者の中には自宅に使っていた布団を家族に要求されたり、畳が好きな方には一部畳敷きにし、安心して座って持ち物の仕分をしたり、ベッド上にメガネや時計などの必需品が置かれ、仏壇に花を供え水替えを日課とされるなど自宅の沿線として捉えた居室である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	希望に応じて時計、テレビ、カレンダー等を置いているので食事、おやつ、体操など時間を見て行動される方も数名おられる。作品作りで気に入ったものを居室ドアに飾ったりして目印にもなっている。		